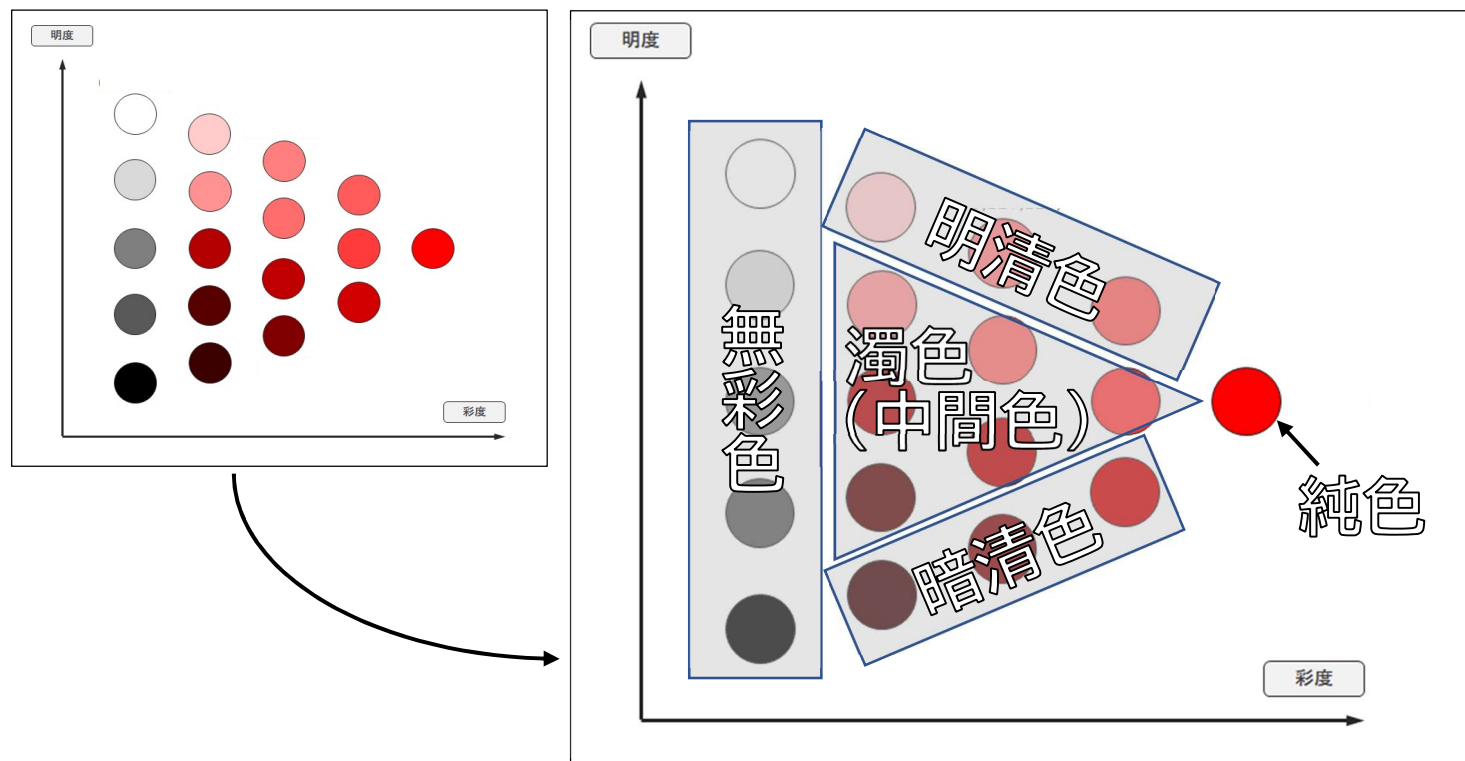


## 【色のでき方】

- どんな色を混ぜても作ることができない色を<sup>さんげんしよく</sup>三原色という。三原色にはテレビやディスプレイなどの光(<sup>しきこう</sup>色光)の三原色と、絵の具や印刷インクなど(<sup>しきりよう</sup>色料)の三原色がある。
- 色光の三原色はレッド、グリーン、ブルーで、それぞれの英語の頭文字をとって RGB(Red, Green, Blue)ともいう。  
また、色光は重ねるほど白くなっていく。この現象を、<sup>かほうこんしよく</sup>加法混色という。
- 色料の三原色はマゼンタ、イエロー、シアンで、それぞれの英語の頭文字をとって CMY(Cyan, Magenta, Yellow)ともいう。  
また、色料は重ねるほど白くなっていく。この現象を、<sup>げんほうこんしよく</sup>減法混色という。
- 色には、<sup>しきそう</sup>色相(色合い)、<sup>めいど</sup>明度(明るさ)、<sup>さいど</sup>彩度(鮮やかさ)の3つの性質があり、これを<sup>いろのさんざう</sup>色の三要素という。
- 彩度の低い色(黒、灰色、白のみ)を<sup>むさいしよく</sup>無彩色といい、それ以外を<sup>ゆうさいしよく</sup>有彩色という。また、各色相の中でもっとも彩度の高い色を<sup>じゆんしよく</sup>純色、純色に白を混ぜた色を<sup>めいせいしよく</sup>明清色、純色に黒を混ぜた色を<sup>あんせいしよく</sup>暗清色、純色に灰色を混ぜた色を<sup>だくしよく</sup>濁色(<sup>ちゅうかんしよく</sup>中間色)という。



- 色相の違う色つくる輪のことを<sup>いろさくわん</sup>色相環という。色相環で互いに向き合っている色は<sup>そくしよく</sup>補色である。
- 同じ色でも、周囲の色によって違った感じに見えることがある。この現象を、<sup>しきさくたいひ</sup>色彩対比という。



- ・<sup>めいどたいひ</sup>明度対比: 同じ明度の色も、暗い背景の上では明るく、明るい背景の中では暗く感じて見える。
- ・<sup>しきさくたいひ</sup>色相對比: 同じ色相の色も、背景の色相の違いで、色相の感じが違って見える。
- ・<sup>さいどたいひ</sup>彩度対比: 同じ彩度の色も、低い彩度の背景の中では鮮やかさを増し、高い彩度の中ではにぶく見える。